1Ap－2

家庭の調理簡便化とその周辺（アンケート調査）Ⅱ

○小住フミ子　　北崎康子
（鹿児島県立短大）

〔目的〕前回，外食やデリカテッセン利用を地方都市の学生や働き盛りの人々が，日常生活でどのように利用しているのか知るための調査を行った。今回は霧島山系の麓で水田地帯といわれる伊佐地方を選び，比較的伝統食が残っているといわれる地方での外食やデリカテッセン（惣菜料理）利用の実態を知るため意識調査を行った。

〔方法〕前回アンケート設問の一部を修正し，食生活改善推進員の人々を通し，大口市及び菱刈町で行った。回収率 100％，調査時期平成９年１１月。自己記入の留置法。解答者は農業に従事する専業・兼業農家16％，無職49％，公務員・会社員26％，その他９％で，60歳以上45％，40代28％を中心にした年齢構成である。

〔結果〕惣菜料理利用者は殆ど購入しない人31.4％で，鹿児島市内との差は少なかった。月に２～３回の購入者は37％で，利用回数は少ない事が分かった。購入する理由の中で，『料理の献立を考えたり料理を作るのが面倒だから』という理由がこの大口・菱刈地方ではあまり通用しなかった。またでき上がり惣菜の『味つけが濃い』と感じるのは，鹿児島市では若い学生が多いのに比し，対象者が高年齢者の多かった故か順位は低かった。大口・菱刈地方の全体的傾向として，外食は月に１回程度，半数の人が利用し，洋食専門店や焼肉店での利用は少なかった。今後利用してみたい宅配サービスは農協（ふれあい等）や生協などの宅配で，栄養のバランス，減塩の事を考えていた。また値段が高くても刺し身購入希望が多く，豆腐や牛乳，納豆等の蛋白源やCa源摂取に気をつけ，健康を考えた日々の食品摂取がなされていた。